

金沢産農産物ブランド戦略 2030 (概要版)

令和8年2月
金 沢 市

1. 戦略策定の趣旨

本市では、「金沢の農業と森づくりプラン 2025（平成 28 年 3 月）」と「金沢産農産物ブランド新戦略（平成 27 年 4 月）」に基づき、加賀野菜や金沢そだち等の金沢ブランド農産物の生産・販売・消費拡大に取り組んできました。

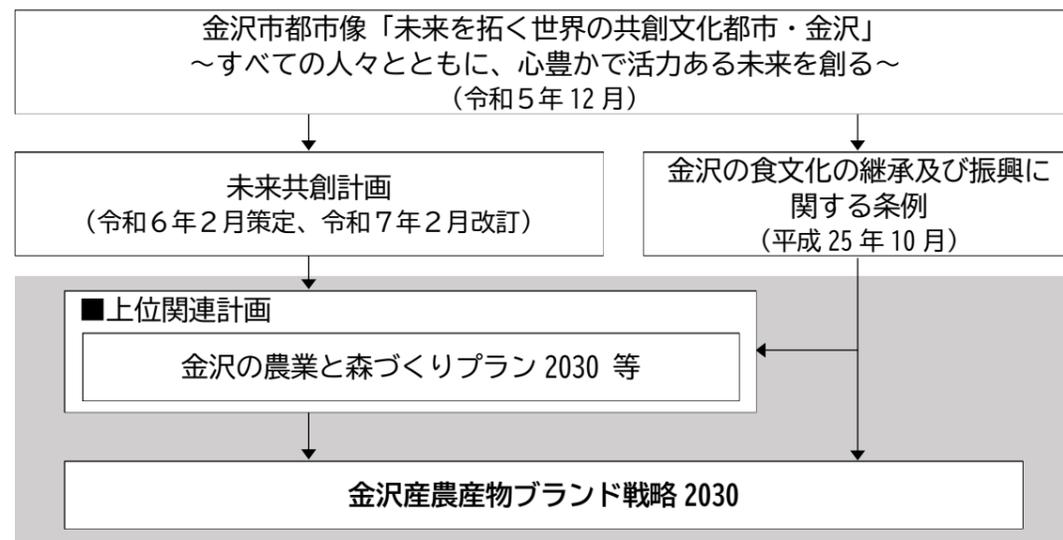
また、本市の最上位計画である「未来共創計画」においても、「加賀野菜等の消費拡大や販路開拓の取組強化」、「希少品目の存続と消費拡大の推進」が掲載されています。

しかし近年、社会情勢の変化は大きく、人口減少・少子高齢化、夏季の高温化、農業生産資材価格の高騰など、金沢産農産物を取り巻く環境は厳しさを増している一方、ライフスタイルの変化による中食・外食の増加や食の簡便化、食の安全・安心など、消費者ニーズは多様化・高度化しています。

このような背景を踏まえ、金沢ブランド農産物の一層のブランド力向上を推進するため、施策の方向や目標、具体的な取組を明確にした新たな戦略を策定します。

2. 戦略の位置づけ

本戦略は、「未来を拓く世界の共創文化都市・金沢」～すべての人々と共に、心豊かで活力ある未来を創る～と「未来共創計画」の趣旨を反映し、上位計画である「金沢の農業と森づくりプラン 2030」の具体化を図り、策定します。



3. 戦略期間

本戦略期間は、上位計画である「金沢の農業と森づくりプラン 2030」の計画期間にあわせ、令和 8 年度から令和 12 年度までの 5 年間とします。

なお、KPI の進捗や社会情勢の変化を踏まえ、必要に応じて見直しを行います。

4. 施策の方向性

【生産の方向性】

方向性Ⅰ 安定した生産体制の確立と品質の向上

加賀野菜や金沢そだちの安定的な生産及び次世代への継承に向け、新たな担い手の育成と多様な労働力の確保に取り組めます。

また、社会情勢や栽培環境等の変化に応じた生産体制を強化することで、各品目の安定供給に努めるとともに、加賀野菜の中でも希少な品目については、維持及び拡大を推進します。

【流通の方向性】

方向性Ⅱ 競争力のあるブランドの育成

市内外で多くの方に金沢ブランド農産物を食してもらうため、新たな販路の開拓や、関係者及び他業種との連携強化を図ります。

また、加賀野菜希少品目の需要拡大に向けた取組を推進するとともに、金沢ブランド農産物の更なる認知度向上や販売促進に向けた取組を強化します。

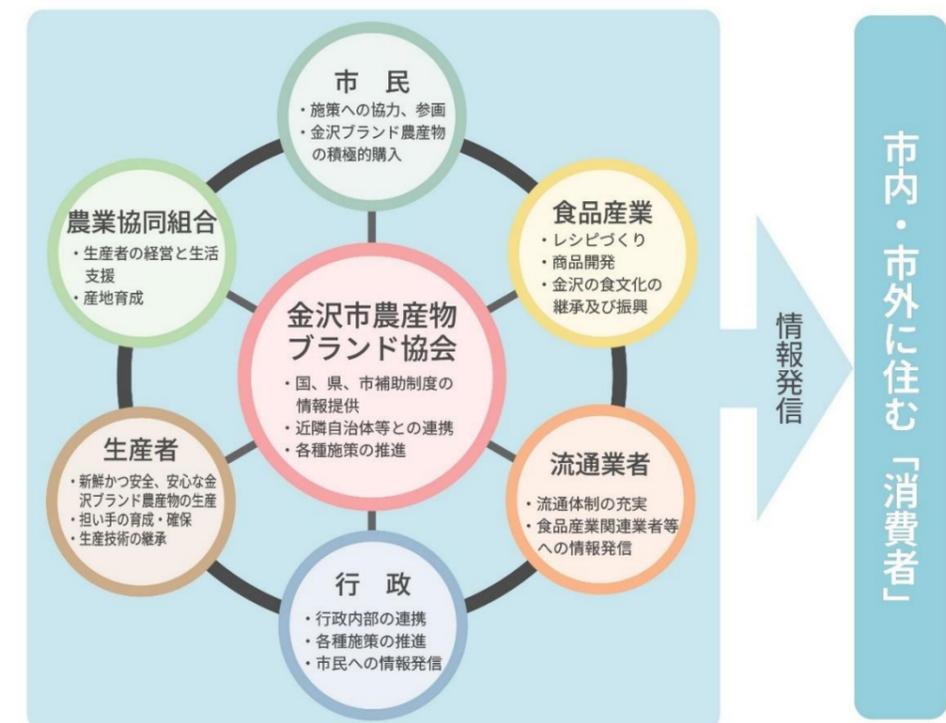
【消費の方向性】

方向性Ⅲ 食文化の魅力発信を通じた金沢ブランド農産物の消費拡大

金沢の食文化の継承に向け、市民の金沢ブランド農産物への愛着を育むことによる地産地消や、首都圏等における消費拡大に向けた取組を推進します。

また、子どもをはじめとした食育環境の充実や、食文化に関する情報発信・体験活動を充実させることで、金沢の食文化の継承に取り組めます。

5. 推進体制



6. 施策の体系図



※くわい、金沢春菊、打木赤皮甘栗かぼちゃ、金沢せり、金沢一本ねぎ、赤ずいき、加賀つるまめ、ハタ紫なす、二塚からしな



金沢産農産物ブランド戦略 2030
(概要版)

発行 令和8(2026)年2月

発行者 金沢市農林水産局農業水産振興課

〒920-8577 金沢市柿木畠1番1号(金沢市役所第二本庁舎)

TEL 076-220-2213 FAX 076-222-7291

E-mail nourin_s@city.kanazawa.lg.jp